

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月21日現在

機関番号：33918

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2011

課題番号：21243038

研究課題名（和文） 東アジア包摂型福祉社会の創出と地域福祉専門職養成の循環システムの形成に関する研究

研究課題名（英文） A Study of development for East Asian Inclusive Welfare Society and a Circulation System for Community Social Welfare Professional Training.

研究代表者

野口 定久 (NOGUCHI SADAHISA)

日本福祉大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：30208381

研究成果の概要（和文）：包摂型福祉社会の推進をリードする地域福祉専門職養成の方法論を共有化し、各国・地域（メゾ）レベルにおいて両側面の好循環システムを構築することであった。ソーシャルキャピタルの概念を用い、日本・韓国・台湾における地域福祉拠点型及びコミュニティ型の調査を実施した。基礎的作業として「日中韓台における社会保障・社会福祉の制度比較研究」一覧表の改定版を作成し、さらにこれまでの研究成果を6本の報告書にまとめた。

研究成果の概要（英文）：The study was intended to explore a method for community social welfare professional trainings which lead to development of inclusive social welfare and expand valuable circulation system between country and community. This study conducted a research on community method and community centered welfare method among Japan, Korea, and Taiwan, applying social capital concept. As for the foundation, a comparative study table for social security and social welfare in Japan, China, and Korea was organized, and gathered results for the study into 6 different reports.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	11,800,000	3,540,000	15,340,000
2010年度	11,800,000	3,540,000	15,340,000
2011年度	11,000,000	3,300,000	14,300,000
年度			
年度			
総計	34,600,000	10,380,000	44,980,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：東アジア包摂型福祉社会・国際社会福祉比較研究

1. 研究開始当初の背景

格差社会と社会的排除の解消や緩和をめぐることは、社会政策・社会保障・社会福祉等それぞれの立場からのアプローチが開始されている。日本の「格差社会」や韓国の「両極化」、そして中国の「不平等の拡大」に伴う

社会問題の噴出は、社会体制の異同を問わず、東アジア域内において社会政策の国際比較研究の展開を迫っている（埋橋『東アジアにおける社会政策学』法律文化社、2006）。これまでの国内外の研究動向を踏まえて、今回の主テーマのひとつである「東アジア包摂型

福祉社会」の枠組み形成への理論研究は、その具体的な個別領域の社会指標を提示することであると仮定する。ここでは、包摂型福祉社会をひとまず、それぞれの国や地域社会における親密圏（家族・地域社会）と公共圏（政府、市場、市民社会のガバナンス）を再編成し、セーフティネット（社会保障・社会福祉制度）の再構築をめざして、それらの3要素及び領域のバランスのとれた包摂型社会として規定しておく。この研究の到達点に関して我々は、科研費基盤研究A「地域福祉計画・介護システム開発を通じた東アジア型福祉社会モデルの構築に関する研究－日中韓台社会保障・社会福祉制度及び文化比較研究」（研究代表：野口定久、2006-2008）の研究成果をすでに発表している。その成果の一つは、日本・中国・韓国・台湾の社会保障・社会福祉関連用語の比較研究を通じて、第1に東アジア域内を中心とした社会保障・社会福祉の国際協力の2つの方法を示した。（①「方法としてのアジア」竹内好、②「差異性の同一性」中島岳志）第2に東アジア福祉社会創出への新たな枠組み（親密圏・公共圏・セーフティネット）の考え方を提示した。第3に日中韓台における社会保障・社会福祉関連用語比較研究から見えてきたことの成果とその波及効果について提言した。（第4回社会保障・社会福祉国際学術会議，2008年9月12日・13日）

もうひとつの主テーマである「東アジアにおける社会福祉専門職人材養成」研究では、すでに大橋・宮城・原田らのグループが、「地域を基盤にしたソーシャルワークに関する実態調査」に関する研究報告を第56回日本社会福祉学会において行っている。地域を基盤とした東アジア型ソーシャルワークの理論枠組み及びその実践応用性について一定の成果を示している。

2. 研究の目的

東アジア（日本・中国・韓国・台湾）の社会保障・社会福祉の発展戦略は、2つの側面からのアプローチが可能である。第1の側面は、東アジアの包摂型福祉社会の共通基盤を形成することである。それは、中間所得層を形成し、弱体化する家族・地域を支え強化する家族政策や地域政策プログラムを開発し、社会保障・社会福祉制度を基盤にした強固なセーフティネットに張り替え、民主主義を定着させ市民社会を形成することによって包摂型の福祉社会を創造することである。第2の側面は、包摂型福祉社会の推進をリードする地域福祉専門職（とくにコミュニティソーシャルワーカー）の人材養成の方法論を共有

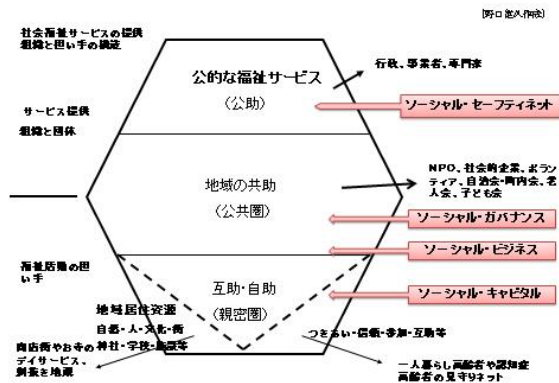
化することである。本研究の目的は、それぞれの国・地域（メゾ）レベルにおいて両者の好循環システムを構築することに向けられている

3. 研究の方法

本研究のテーマである東アジア域内（日本・中国・韓国・台湾）の包摂型福祉社会の創出及び地域福祉専門職養成の循環システム形成に関して特に重要となる論点は、①東アジア包摂型福祉社会モデルの模索、②社会政策・社会保障・社会福祉の国際比較研究方法論の開発、③地域福祉専門職（コミュニティソーシャルワーク、アドミニストレーション、ケアマネジメント）の人材養成システムの開発、そして④これらの要素を循環させるシステム形成に焦点化した。A. 東アジア包摂型福祉社会の理論枠組み形成：福祉国家レジームを含む包摂型福祉社会の構成には、セーフティネット（社会保障と社会福祉制度・サービス）と公共圏（政府と市民社会のガバナンス）、そして親密圏（家族・地域のソーシャル・キャピタル）が含まれる。それぞれの国や地域ごとに、それらの3要素及び領域のバランスのとれた包摂型福祉社会の創出。B. 親密圏の各指標の計量と質的調査研究：主として中国・韓国・台湾の自治体（海外共同研究者の協力を得て調査対象自治体を選定）を対象に、人口規模・地域特性・財政力等に目して、統計データ（業務統計等）を収集し、データベースを作成する。（平成21年7月）さらに一定の地域を選定し、家族や文化状況の把握、地域福祉及び介護状況に関するアンケート調査、住民の福祉意識調査（ソーシャル・キャピタル：つきあい・交流、互酬の規範、社会参加の度合い）等の実施。C. 公共圏の実証研究：日本・中国・韓国・台湾の自治体を対象に公セクター・民間セクター・市民セクターの三者の協働によって公共的諸問題を解決していく市民社会システムにローカルガバナンスを通して構築していくことになる。韓国の総合福祉館と日本の隣保館の比較実地研究。

D. セーフティネットのプログラム開発研究：公共サービスの提供を主体とする第1次セーフティネットの敷設は、安心して住み続けることのできる居住環境の整備と「生活の質」の向上を行政・企業・NPO・市民等のローカル・ガバナンスによって実現可能となるであろう。これは、福祉社会の役割の範囲である。そして、第2次及び第3次のセーフティネットとして、一時的な生活リスクに対応する社会政策（雇用、医療、住宅、教育など）と長期構造的な生活水準の低位に対応す

図4 地域における「新たな支え合い」の関係



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 27 件)

- ① 禿あや美、埋橋孝文、現代日本の社会政策の評価と将来選択、社会政策、査読なし、3 巻 1 号、2011、3-12
- ② 平林義康、埋橋孝文、地域における個別的な就労支援に向けた取組—パーソナル事業の展開、Int' l ecowk, 査読なし、1015 号、2011、7-13
- ③ 埋橋孝文、福祉政策の国際動向と日本の社会保障再編の方向、労働調査、査読なし、503 号、2011、4-8

[学会発表] (計 33 件)

- ① 野口定久、日中社会福祉の比較について—普遍性と多様性—：地域福祉と社区福祉の政策と実践—相互交流の意義、2012 年中国社区福祉ワークショップ会議、北京社会科学院、2012. 3. 14
- ② 野口定久、東アジアにおける社会保障・社会福祉の普遍性と多様性、国際会議：日中韓社会保障ワークショップ in 杭州会議、中国杭州市花家山荘、2011、10. 15-16
- ③ 野口定久、日中韓における文化多様性と社会福祉の課題—社会福祉の政策及び実践への応用、日本社会福祉学会第 59 回秋季大会日中韓国際シンポジウム企画、淑徳大学、2011. 10. 9
- ④ Park Hye-Bin&Takafumi Uzuhashi, A Comparative study of Elderly Labor Supply in the OECD countries, The Seventh International Conference on East Asia Social Security, Pusan National University, 2011. 9. 4
- ⑤ Takafumi Uzuhashi&Lee Son-young, A comparative study on Long Term Care Schemes in Japan and Korea: An Application of Quasi-Market Theory, Social Status Changes of the Aged People and Ageism

Reconsidered”, Seoul National University, 2011. 6. 24

⑥ 野口定久、現代日本における社会問題の多様・増大化と社会福祉政策の展望—親密圏・公共圏・安全網の再構築—、2011 年度韓国社会福祉学会春季大会、韓国保険福祉人力開発院、2011. 4. 23

[図書] (計 10 件)

- ① 埋橋孝文、法律文化社、福祉政策の国際動向と日本の選択—ポスト三つの世界論、2011、218
- ② 埋橋孝文、明石書店、ディーセントワークの指標化をめぐる、2011、250-267

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野口 定久 (NOGUCHI SADAHISA)
日本福祉大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：30208318

(2) 研究分担者

埋橋 孝文 (UZUHASHI TAKAFUMI)
同志社大学・社会学部・教授
研究者番号：60213427
後藤 澄江 (GOTO SUMIE)
日本福祉大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：60247674
原田 正樹 (HARADA MASAKI)
日本福祉大学・社会学部・教授
研究者番号：40287793
武川 正吾 (TAKEGAWA SHOGO)
東京大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：40197281
牧里 每治 (MAKISATO TSUNEJI)
関西学院大学・人間社会学部・教授
研究者番号：40113344

(3) 連携研究者

大橋 謙策 (OHASHI KENSAKU)
日本社会事業大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：40060470
杉岡 直人 (SUGIOKA NAOTO)
北星学園大学・社会学部・教授
研究者番号：10113573
井岡 勉 (IOKA TSUTOMU)
同志社大学・社会学部・名誉教授
研究者番号：80066240
上野谷 加代子 (UENOYA KAYOKO)
同志社大学・社会学部・教授
研究者番号：40123583
宮城 孝 (MIYASHIRO TAKASHI)
法政大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：70276864
和気 康太 (WAKE YASUTA)
明治学院大学・社会学部・教授
研究者番号：50257060

金 成垣 (KIM SUNG-WON)
東京経済大学・経済学部・准教授
研究者番号：20451875
沈 潔 (SHEN JIE)
日本女子大学・人間社会学部・教授
研究者番号：20305808
金 貞任 (KIM JUNG-NIM)
東京福祉大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：00364696
韓 榮芝 (HAN RONGZHI)
長崎国際大学・人間社会学部・助手
研究者番号：90369108
包 敏 (BAO MIN)
広島国際大学・医療福祉学部・准教授
研究者番号：00352013
徐 明仿 (MINGFANG HSU)
八戸工業大学・感性デザイン学部・助教
研究者番号：40433479